



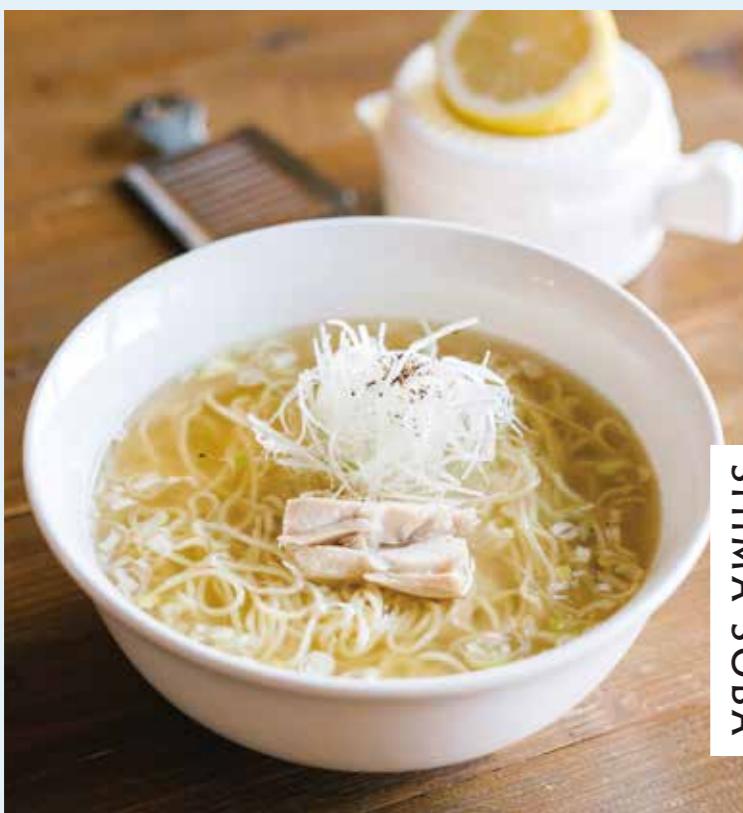


仕事と仲間が紡ぐ、ちょっとイイ関係。

「商工会」と聞くと、なんとなくのイメージから構える方もいるかもしれません。だけど、仕事の相談を気軽にできる『ちょっとイイ』距離感の仲間がたくさんいる会、となるとどうでしょう？途端に身近に感じませんか。商工会の会員かつ45歳以下のメンバーが所属する青年部は、まさにそんな居場所です。呉広域商工会は「音戸倉橋支部」「川尻支部」「安芸灘支部」「安浦支部」の4つのエリアから成り、豊かな自然に囲まれた瀬戸内地域で事業を営む人たちの縁を紡ぐ輪となっています。自分で始めた商売、親から受け継いだ会社、経営者として事業を続けていくことは、時に孤独を感じるかもしれません。そんな時、隣にいる仲間が、感情的ではなく、ただ同士として目の前の問題や課題に立ち向かう勇気を与えてくれるはずです。人と人が繋がり、やがて地域全体に広がり、ひとつのカタチとなり、縛になります。それが、私たちの居場所「呉広域商工会青年部」です。

IT BECOMES THE SHAPE
TO BE CONNECTED
AND TO SPREAD.





SHIMA SOBA



白鶏(パイチー)スープに爽やかなレモン香る「島そば」。日々、完全予約制で提供する中華と和食のコース料理のシメとして出していたものをアレンジして作り上げたそう。最後に新鮮なレモンを絞って味変を楽しんで。



濱下 勇樹
島そば ホーリーダー^{Yuki Hamashita}
呉市音戸町出身。高校を卒業後、京都で和食の修業に励む。結婚を機に下蒲刈へ移住し、会社員として働く傍ら、島の特産品を加工する『島の屋』と『maruya cafe』を奥様と一緒に立ち上げる。



袋尻 宏幸
島そば 料理人^{Hiroyuki Fukurojiri}
竹原市出身。広島市内のホテルに料理人として勤務したのち、2010年に下蒲刈へ移住。ちりめん漁師を経験した後、調理師を生かせる会社に入社。週末を中心にして内外の色々な事業をしている方と出会えます」と濱下さんと袋尻さん。

人と人がこの地で出会い、仕事が紡いだものづくり。

冬の島の賑わいづくりに島の魅力をぎゅっと込めた「島そば」をプロデュース。

実はふたり、「島そば」をプロデュースする料理人でありながら、同じ会社に勤務する同僚でもあります。そして共通点はもうひとつ、下蒲刈出身の奥様と2人の子どもを持つお父さん。彼らはこの島で料理人として出会いました。平日は会社員、11月～2月の週末は濱下さんが経営する『maruya cafe』で、レモン香るラーメン「島そば」を振る舞う料理人として活躍しているのも、ふたりがこの島で出会ったからこそ。夏の観光地として人気の下蒲刈ですが、冬は閑散としているのが実情。そんな冬の下蒲刈を盛り上げようと開発したのが「島そば」です。合図は濱下さん、調理は袋尻さんと役割分担の息もぴったり。商工会を通じて「くれ食の祭典」にも出店し、あっという間に500杯を完売しました。「僕たちは地元ではないですが、商工会というコミュニティがあることで島内外の色々な事業をしている方と出会えます」と濱下さんと袋尻さん。

まちへの想い、人への想い、純粋な想いが出会いれば、アイデアが生まれ、やがてひとつのモノが生まれます。そして、そこには必ず物語が宿っています。出会うべくして出会ったふたりを結ぶのは、深い信念とかけがえのない縊。仲間として、ときに友として支え合い、大きな夢へと向かう原動力となります。



大本 紀子
地域ネットくれんど理事^{Noriko Omoto}
呉市安浦町出身。美容師、ヘアメイク、レストラン店長という異色の経歴を持つ。父の福祉に対する想いを受け継ぎ、くれんど立ち上げから福祉事業に携わる。

IT BECOMES THE SHAPE TO BE CONNECTED AND TO SPREAD.



二神 愛美
安浦町地域おこし協力隊^{Manami Futagami}
高知県出身。2019年4月より地域おこし協力隊として安浦町に移住。任期満了となる2年後に、まちづくりをするお菓子屋さんとしての起業を目指し日々奮闘中。

豪雨災害で被災した安浦地区に咲いた希望の花、マリーゴールドをカタチに。



CAMPANELLA STALL

被災地に咲いたマリーゴールドの種を収穫。小学校や幼稚園などで栽培し、染料として自社工房で染めたものをストールに。まちぐるみの活動は、くれんどで働くスタッフさんの提案から始まったものです。

「弱さを絆に」を基本理念に、障害者の自立支援や居場所を作るNPO法人『地域ネットくれんど』。理事として、今までになかった方法で地域と人とを繋いでいるのが大本紀子さん。障害のある人が仕事を通じて地域社会と関わりを持ち心豊かに暮らせるようにと、パン屋やカフェ、染めもの工房をオープン。「地域のイベントを企画する青年部は、私自身が地域と深く関われる場所。くれんどへの理解を深めてもらえるきっかけになります」と大本さん。立ち上げた事業は今では安浦町の憩いの場所のひとつに。そんな中、平成30年7月豪雨災害をきっかけに、安浦町まちづくり協議会とのコラボレーションで生まれた商品があります。茶色い景色の中に凛と咲いていたマリーゴールドを復興のシンボルとし、ストールを作りました。そこで地域おこし協力隊として勤務する二神さんと出会い、起業に関する相談にも乗るなど、まちの頼れるお姉さんの存在です。

青年部について聞きました。

PEOPLE CLOSE UP!

これが、僕たちが望んだ理想のカタチでした。
地域に関わりながら暮らすといふこと。



Tom Miyagawa

people of "AKINADA"

宮川トム

共同代表
アイランド・ピクチャーズ

東京都出身。イギリス人の父と日本人の母を持つ写真家＆ライター。三重県出身の奥様と結婚後、2015年に大崎下島へ移住し、島を拠点に日本の魅力を海外へ発信。2019年には写真館をカフェに改装しオープン。

「僕にとって青年部は、地域と関わり人と繋がることができる場所です。この島に移住するまでは、商工会という存在さえも知りませんでしたが、今では僕が生活するうえで、大切な仲間とまちを結んでくれる基盤になっています。東京の門前仲町という下町で生まれ育ち、6歳からはイギリスで暮らしました。スコットランドの大学を卒業後、イギリスで就職したのですが、自分の好きなことのひとつだった写真家になりたいと勉強を始めました。その後、きちんと日本で暮らしてみたいと来日。アメリカのオーガニック農家を題材

にした書籍を出版し、日本で写真家としての一歩を踏み出すことができました。そんな僕にとって、商工会という組織とまったく接点がなく、青年部に入ると無条件に仲間ができる、その仲間たちと地域のイベントを企画するなんて夢にも思っていませんでした。日本の田舎でゆっくりと暮らしたいと大崎下島への移住を決めて、妻が地域おこし協力隊に採用されたことから、トントン拍子でこの島で暮らすことになりました。コンビニもなければ、繁華街もありません。僕たちはまったく戸惑うことなく、むしろこの島で暮らす地域コミュニティです。

ニティの大切さを知りました。アメリカのオーガニック農家を取材したときに感じた“大切なものの”を思い出したのです。日本の田舎で暮らすということ＝地域にしっかりと関わること。これをよく理解できたので、青年部に入ることはごく自然な流れだったと憶しています。青年部が主体となって開催する行事は冬の産業文化祭と、夏の花火大会。どちらも実行委員として、まちのみなさんの楽しそうな姿を想像しながら準備に励みます。この小さなまちでは人口が少ない分、みんなが主役なんです。ひとりひとりの存在がすごく大きくて、そのひとりひとりをとても大切に想い、頼りにしているんです。そんな仲間のひとりとして受け入れてくれ、まちを歩けば声をかけてくれる。こんな楽しいことはありませんよね。昨年の1月に『トムの写真館』は英国スタイルのティールーム『THE TEA COSY』に変化を遂げました。ここにも島のみんなが集ってくれます。商工会の青年部も消防団も、祭礼団も僕にとっては大切なコミュニティです」。



移住者の僕にとって、
地元の声を聞ける
貴重な居場所です。

Masaya Amamoto

ALPHA 倉橋
seaside cafe

天本雅也

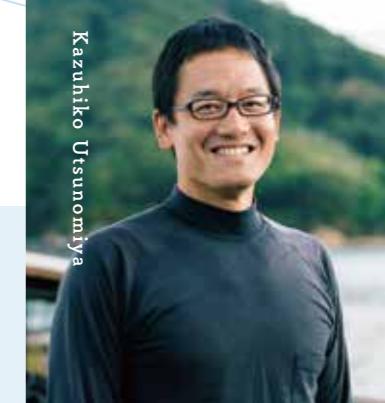
福岡県出身。2016年、奥様の地元でもある倉橋島へ移住し『シーサイド桂ヶ浜荘』の一角にカフェをオープン。



実際に、倉橋島の新名物・お宝フリット誕生の瞬間に立ち会えましたし、地元の友達のように声をかけてくれる顔見知りもたくさんできました。地域との縁を繋げてくれる場所です」。

「僕たちの店がある倉橋島は妻の地元です。彼女が生まれ育ったこの場所に初めて来たときに、目の前に広がる穏やかな瀬戸内海の景色に心を奪われたことをよく覚えています。当時は横浜に住んでいて、会社員として忙しさに追われる日々。定年まで都会で働くことを想像したとき、元気なうちに何か自分の手で始めたいと思い、家族で選んだのは広島への移住

という選択肢でした。島での起業を決意してから、事務的に必要だったこともあり商工会へ入会。しかし、青年部の存在は知らないままでした。その後、妻の幼なじみから誘われてその存在を知り、青年部にも入ることに。実は飲んでるイメージしかなかったのですが(笑)、地元出身者ではない僕にとって、地域の方や他の事業者さんと出会えるチャンスだと思いました。



Kazuhiko Utsunomiya

people of
"KAWAJIRI"

宇都富寿彦
(有)ウツノミヤ
吳市川尻町出身。広島の大学を卒業後、家業である水道工事会社に入社。2019年より代表取締役に就任。

地域貢献に心が動いた時、
軽やかなフットワークで
動ける仲間がここにいます。



「実は、青年部に入る前は、お祭りや行事の手伝いに時間ばかり取られて、今よりも忙しくなると困るなあと思っていました。これが約10年前の本音です。地域のライフラインを支える

簡単ではありません。商工会青年部の活動で『川尻元気まつり』の運営をさせてもらっているのですが、このお祭りでいろんな方と知り合えて、仕事の幅も広がりました。また、手伝うという立場ではなく開催する側になると、異業種の仕事を体験できる楽しさを知り、参加者が楽しそうに過ごしている姿をみると、青年部が掲げる社会貢献っていいなと思います」。

地域の輝きこそ、私たちの誇り。
仲間を、家族を、まちを元気に。



呉広域商工会青年部には、業種や世代、地域を超えた交流があります。例えば、家族会。青年部のメンバーの家族が集まり、賑やかな時間を共有します。流しうめんをしたり、工作をしたり、みんなで笑って美味しいもの食べる。毎日、緊張感のなかにいる経営者という立場は決して甘いものではありません。そんな日々を支えてくれている人が必ずいるはずです。家族だったり、恋人だったり、友人

だったり。家族会は「感謝の気持ちを忘れない」そんな大切な想いを共有するきっかけのひとつなのです。そして、自分たちの暮らしの拠点となる地域も大切に想っています。まちへの感謝の気持ちが、マンパワーとなって、各地域のお祭りやイベントを盛り上げます。そう考えると、はじめは少し消極的だった“行事の手伝い”も“まちに元気を与えるためのきっかけづくり”と思えるのも自然なことかもしれません。

KEEP
TRADITION



地域に根づく行事を次世代へ紡ぐために。

- 野呂山山開き
- 青年部主張発表大会
- くらはし遣唐使船まつり
- 絆感謝清掃運動
- 豊町七夕納涼祭
- おさかなカーニバル
- 黒瀬ふれあい夏祭り
- 経営者勉強会
- 蒲刈恵みフェア
- おんどフェスティバル
- かわじり元氣まつり
- 新ええとこ祭り
- 豊町産業文化祭
- 宝島くらはしフェスティバル
- 安浦かき祭り

4つの特色あるエリアの支部からなる呉広域商工会青年部。毎年、1年間で15ものお祭りや行事が行われています。それぞれの地域に文化があり、守るべき伝統があるのです。私たちはそのひとつひとつを大切に、次の世代へと繋ぐ架け橋のような存在になりたいと願っています。自分たちが暮らす地域だけではなく、仲間が暮らす地域の人々にも笑顔を届けたい。その願いが地域を越えた文化的交流を育んでいます。他の地域の伝統を知り、他の地域に自分のまちの魅力を伝える。この呉広域商工会青年部ならではの絆があります。

IT BECOMES THE SHAPE
TO BE CONNECTED
AND TO SPREAD.

VOICE

呉広域商工会青年部員の
これがリアルボイス。
こんなにあったよ、よかったこと。

- 意外と孤独を感じている経営者しか分からぬ想いや悩みを相談できる仲間ができました。
食品加工業・瀬戸さん(45歳)
- 地域のイベントに参加しているうちに、準備や運営が上手になり仕事でも役立っています。
鮮魚小売業・須賀さん(38歳)
- 同業種で仲良くしてもらえる仲間ができるて、仕事をお願いできる発注先も増えました。
建設業・小迫さん(44歳)
- なかなか知り合うことができない他業種の人と出会えて、人生に新しい風が吹きました。
金属加工業・脇さん(30歳)
- 青年部はまちづくりには欠かせない存在。
ひとりでできることもできるパワーがあります。
内装業・銭谷さん(43歳)
- 思いやりを持っているメンバーがとても多く、自分の考え方をプラスに変えてくれます。
牛乳小売業・原さん(39歳)
- 豪雨災害のときに仲間たちが駆けつけ、泥をかき出してくれて本当に嬉しかったです。
仕出し業・上田さん(31歳)
- 補助金や助成金のみならず、仕事に今役立つ勉強会など、経営に必要な情報が入ってきます。
自動車整備業・杵原さん(44歳)
- 人の繋がりが仕事に繋がり、みなさんとの交流によって知識が増えて視野も広がりました。
建設業・堀田さん(39歳)
- 自分に何ができるのか? どうやって仕事に繋げていくのかを考えるようになりました。
石材加工業・岡本さん(35歳)
- 大人になってこんなにも利害関係のない仲間が作れる場所はありません。まさに大人の部活動です。
舗装工事業・橋本さん(41歳)

IT BECOMES THE SHAPE
TO BE CONNECTED
AND TO SPREAD.

MESSAGE from IMPULSE

SUPPORTER

呉広域商工会青年部をサポートしてくれる
事務局・経営指導員のみなさんに、
経営に関するあらゆることを相談できます。

これから起業する方も、起業したばかりの方も、家業を継承する方も、経営に関する悩みは尽きません。世の中の仕組みを知れば知るほど、経営者として取っておくべき対策が増えるのも事実です。そんなときに、気軽に相談できるのが商工会という組織。税務、労務、販路開拓、資金繰り、後継者問題など、それぞれが抱えるあらゆる経営の課題について、経営指導員が解決策を提案します。また、創業サポートや事業継承

時の問題解決にも対応しているので、事業スタート(事業継承)前にも有益な情報をお届けすることができます。とくに青年部は45歳以下の部員で構成されることもある、若きリーダーたちが会える場でもあります。自己利益を追うだけではなく、人脈を広げて強いリーダーシップを發揮する。地域にとっても宝となるようなリーダー誕生の瞬間に幾度となく立ち会ってきました。困ったことがあれば何でもご相談ください。



INFORMATION

呉広域商工会・青年部に関するお問い合わせは、下記まで。

呉広域商工会本所 事務局

TEL 0823-70-5660

FAX 0823-87-3318

MAIL kure-kouiki@hint.or.jp



〒737-2603 広島県呉市川尻町西1丁目1-1

【開所時間】8:30~17:15 【休日】土曜日・日曜日・祝日

災害、緊急時に
役に立つ!

災害時対応便利帳

<https://www.kure-kouiki.jp/youth/>

